

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

インドはスポーツ小国？！

JSC 貿易部ニュース インド編

春の風が心地よい季節となりました。皆様如何お過ごしでしょうか。

さて、先月のメルマガではクリケットのお話をさせて頂きましたが、最近はサッカー人気も徐々に高まりつつあるようです。この前のサッカー・アジアカップでは、初の決勝トーナメント進出まであと一步のところまでバーレーンに敗れてしまいました。



写真はアジアカップのバーレーン戦に臨む勇敢なインドの選手たちですが、未だ、ベスト16の壁も超えておりません.....(^_^;)

13億人もの人口を有するインドですが、私自身、アジアカップだけでなくオリンピックや世界選手権といった国際試合で、インド選手がメダルを取っているのをあまり見たことがありません。

皆様はインドのスポーツに対して、どのような印象をお持ちでしょうか？

実際に、前回の2016年リオオリンピックのメダル獲得数を調べてみましたところ、インドが獲得したメダルの数は銀1、銅1のみです。メダル獲得国の中で78か国中、67番目。人口300万人程度のモンゴルと同じでした。(^_^)

以下の表が、リオオリンピックのメダル獲得国の下位のランク表です。

順位		金	銀	銅	合計
60	マレーシア	0	4	1	5
61	メキシコ	0	3	2	5
62	アルジェリア	0	2	0	2
62	アイルランド	0	2	0	2
64	リトアニア	0	1	3	4
65	ブルガリア	0	1	2	3
65	ベネズエラ	0	1	2	3
67	インド	0	1	1	2
67	モンゴル	0	1	1	2
69	ブルンジ	0	1	0	1
69	グレナダ	0	1	0	1
69	ニジェール	0	1	0	1
69	フィリピン	0	1	0	1

人口あたりのメダル獲得数では、もちろんダントツの最下位です。(>_<)
同じく 10 億人を超える人口を有する中国が、金 26・銀 18・銅 26 でしたのでかなりの差です。

各国の経済事情でトレーニング設備や方法に差があるとはいえ、中国は今ほど豊かになるかなり前から多くのメダルを取っていました。また、同じアジアの新興国とインドを比較しても、タイやインドネシア、マレーシアよりもメダル数が少ない状態です。

前回出張時に、そんな疑問を仕入先のインドの方々にぶつけてみました。

まず、皆さんが挙げるスポーツが振るわない理由の第一は、「汚職」。これを理由に挙げる方が多かったです。

「政治家達は私服を肥やす事に熱心で、お金をスポーツの振興に回さない。多少回ったとしても、スポーツ組織自体も汚職まみれで機能していない」と憤慨しておりました。

第二の理由としては、「貧困」。大多数の人々が日々の食事を食べるのがやっとで、スポーツなんかやっている場合ではないという理由です。またインドでは小中学校に、体育の授業自体が無い地域が多いようです。まともなスポーツの設備も無く、小さい頃からスポーツにふれる機会も少なく、そうなる基礎体力も付かないし、なかなか一流選手も育ちません。



写真は私が、移動中に車中から見た子供たちですが、下校後、スポーツを楽しむのではなく、花を売りに来ていました。(^_^)

スポーツクラブに入れるのは、ごく一部の経済的に余裕のある家庭の子供たちだけのようです。

ちなみに、当社の取引工場の 40 代マネージャーは学生時代に体育の授業があったそうですが、珍しい部類のようですね。

第三の理由としては、国の政策。中国、北朝鮮、ロシア、東欧の国々では、昔から国を挙げて国威発揚のためメダリストを育成するシステムができていましたが、インドはスポーツを愛国心に結びつけないようです。

またインドでは、ケニアのマラソン選手のように大会で優勝すれば莫大な優勝金を手に入れる事ができるというようなサクセスストーリーも少なく、スポーツでの活躍が経済的豊かさに直結しないようなところがあるみたいですね。



その他にも、イスラム教では宗教上の理由から、女性選手は水泳などの肌を露出するスポーツへの参加はタブーとなっていたりと、そういった様々な現状を考えると、インドがスポーツ大国になるのはまだまだ先の話かもしれません。

いよいよ来年に迫った東京オリンピックですが、日本人選手の活躍と共に、インドの人々の活躍にも注目し、応援してい

たいと思います!!(^ ^)

さて本題のインドの石のお話です。

M10・インド山崎・Y1など、比較的ムラが多いのがインドの黒緑系の石の特徴ですが、皆さま、「BKK」という石はご存知でしょうか？

この「BKK」という石、比較的ムラツケが少なく石目が揃っているのが特徴でございます。



この度、中国工場用に原石を購入いたしました。
丁場も安定した岩盤で大材もとれております。

長さ 9 尺といった長尺物もとれ、角周りも 5 尺角以上がとれていきますので、日本全国のサイズに対応が出来ます。



現在輸出手続きを進めており、4 月中には中国の協力工場に到着します。

主に関東圏で使われている石なのですが、他の地域の皆様も是非一度お試しくださいます！！

それでは、今月も最後まで読んでいただきありがとうございました。

新年度を迎えられ、何かとお忙しいことと存じますが、くれぐれもご自愛くださいませ。(^^)

2019/04/01